

$2n=26$ の染色体数をもっており、それらの染色体はすべて同じ形態を示し、かつ大変小さかった。オーストラリア産のイシモチソウ (*Drosera peltata*) の染色体数は、 $2n=40$ をもつ日本産やインド産のものと異なり、 $n=16$ であった。関西型コモウセンゴケ (*Drosera spathulata*) から $K(2n=60)=18L+42S$ がえられた。染色体数は愛知県産コモウセンゴケと同数である。日本で園芸栽培され始めたナガモトモウセンゴケ (*Drosera* × 'Nagamoto') といわれる雑種はナガバノモウセンゴケ (*Drosera longifolia*) を母親に上記関西型コモウセンゴケを父親として、永本二郎氏により作出されたものである。この雑種の核型を調べたところ、 $K(2n=50)=30L+20S$ と、 $K(2n=43)=30L+13S$ という2つのものが得られた。

□ 中国科学院植物研究所主編：中国高等植物図鑑 *Iconographia Cormophytorum Sinicorum* 第1冊、第2冊。中国科学出版社、1972年2月発行、第1冊5.20元、第2冊5.60元、A5版。中国のコケ類以上の高等植物の図鑑である。解説によると、中国にはコケ類以上の高等植物は3万種知られているが、その内7500種を図説する計画で、第1冊、第2冊が出版された。第1冊はコケ類212図、シダ類356図、裸子植物109図、被子植物の離弁花類をエングラーの旧版の順序でクスノキ科まで1054図。第2冊はケン科からミズキ科までの離弁花類の残りの全部2224図をのせ、用語の解説と科、属の検索がつけられている。印刷の体裁は牧野日本植物図鑑と似ていて、1頁に2種類づつ図説されている。第3冊は合弁花類、第4冊は単子葉類が予定されている。

中国各地の植物系の研究所や大学が協力して編集したものである。今まで中国の図説類は、大型の詳細に画かれたすぐれたものがいくつかある。しかし大部すぎることと、地域的にすぎるために学術研究以外には使用しにくく、一般的なものは殆んどなかった。陳氏の中国樹木分類学も樹木だけの図鑑である。今回のものは草も含め、しかも中国植物のほぼ4分の一が納められているので貴重なものである。日頃名前だけは書いていても図を見る機会のなかった中国固有の属や種が多数のせられているので見ていてもたのしい本である。

多量の図なのでかなり既存の本から引用された図がみうけられる。これらは出典まではあげなくとも、少くとも引用のもとになった原図の著者名位はあげておくべきものと思う。中には既存の原図をもとに書きかえたのではないかと思われるものもある。そのため記載文と図とは別の植物でないかと考えられるものがある（例 *Viola vaginata*）。牧野図鑑から引用したものは細部が省略されて粗な図になっているなど欠点もあるが、とにかく便利な価値の高い本が出版されたもので、早く完成されることが望まれる。日本では2冊3,240円で販売されている。北京で購入して、早速情報を伝えて下さった山田和子氏に感謝する。

（山崎 敬）